

# 風の流

【短歌】

岡崎 桜雲 選

見事なる入母屋造りの家なるに庭木はすべて屋根を越しおり  
二人して顔を洗ひしあわせを逢いたき時に逢えぬ淋しさ  
暖かき山神様に幟立て農婦の一人が祝詞捧げる  
病と貧幾山越えし世代なり育てし子等に看取られて逝く  
願解きて晴るゝ心の八淨寺淡路の海の風ぎて煌めく  
弟が逝つて二十日の夜の夢われが導く便所さがしを  
孫・曾孫揃いて墓参春日和腰痛患う母も笑顔に  
広報に友の短歌の見えぬ時居所も知らずすこやかにあれ  
永遠に続く不幸はあらざりとやなせたかしの言葉身に沁む  
待ちに待った曾孫身籠りて血は騒ぐぼんぼん跳ぶを遊園地に見たし  
作業場の種物袋ゆさめきの洩れくる如しけふ「穀雨」なる  
ヒッコチと夫の呼ぶ鳥畑うてば寄りて餌取る早業を見せ  
引潮に濡れてひそけき砂地入り見渡す宵の藍の海原  
戦陣に散華せし戦友ゆるしませ成すことも無く我まだ生きて  
まどのべにふりくる雪に目をみはりさぞ寒からむふるさと大栃  
美しき声に惹かれて探せども姿見せない野暮な鶯  
花の春遠山野原淡に浮き物部の流れ澄みて光れり  
道の辺に群れて咲きいる菜の花は音なき里にロマンの香り  
捨てたれゆく棚田見下ろし翁らは来しかた語る眼裏あつく  
さざ波走る田の面に写るあかね雲スキップしたき思いに歩む  
一羽来て又一羽来る山雀に今年も会えた吾が家の庭に  
震災の恐怖の極み深む日々確かなる備え未だ成し得ず

小原 子川  
公文多賀子  
小松 隆之  
森本 幸美  
岡田美代子  
法光院俊子  
楮佐古きよ  
門田 喜美  
山崎 貴子  
高野 和一  
大岸由起子  
小松 敏子  
坂上のぶ子  
山本 太幸  
門脇 千代  
坂本美智子  
菲生 灯  
谷内 務  
公文 千恵  
吉本 悦子  
松中 賀代  
武内 弘子

誘われてカラオケ列車に乗りたれば歌は脱線ばかりしており  
親族らが棺を囲みこもごもに百三歳へ別れを惜しむ  
自転車に「日本一周」と書いて漕ぐ若者の背を春の陽が押す  
五年後の抱負を孫に問はれをり生きる汝の嬰兒抱きたし  
老いてなお思うは母のあの言葉「元気で頑張れ」嫁ぐ日の朝  
春より土佐のおきやくに誘われて花の宴にひとときをもつ  
忘れてはならぬ三・一一をランドセル負ひはしやく孫らに  
久し振りの電車より見る春の町白き辛夷のひらひらと咲く  
庭先にウグイスの鳴く穏やかな日差しにひとり微笑みこぼるる  
幼らはのぼせる程に人いてもカード欲しさのハンバーガ買う  
勤め帰りの息の作る鍋おいしくて明日は買い出し暖かくしてと  
硝子戸を猫がしずかに開くとき爪の巧みさ寝て聞きをり  
チューリップ開く狭庭の黒猫は細目をあけて又ねむり居る  
年明けの凍てつく夜の宮に飲む甘酒のこと書きし少年  
波に止まり空に翔りてわが前に遊ぶとも見えず鳶とかもめと  
研修のリングの木村剪定は南は低く北は高くと  
しだれ梅紅梅花桃青空に映えて可憐に咲きほこりたる  
空想と夢ともわからぬものを見て横たえる身体熱持ちており  
寂しけれど今日をかぎりの子らの声佐岡小学校時のなげに  
香川へと友と買物楽しくて時間経つのが早い春の日  
まぶしさに目を細めつつ枯草の中より芽ぶく路のとう摘む  
由緒ある店名ざらりと片かなに変へて華やぐ客も売場も

門田 明子  
公文 正子  
大石 綾子  
竹村 咲子  
林田 幸子  
小松 禮子  
古川 安子  
高橋 章  
近藤 由美  
伊藤 清子  
大石紗智子  
小松もとみ  
古谷 由美  
都築 初代  
佐竹 玲子  
宮地 亀好  
森本眞理子  
佐々木真里  
小野 恵仁  
吉川 恵  
明石 敬恵  
岡崎 桜雲

※掲載を希望される方は、掲載月の前月1日までに、総務課内広報委員会事務局「俳句・短歌」係  
事務局へご応募ください。  
【投稿先】香美市役所総務課内広報委員会事務局「俳句・短歌」係  
〒782-8501（住所記載不要） FAX 53-5958



ありがとう

## 佐岡小学校



①卒業証書授与②卒業式の様子③卒業式会場に展示された児童の作品④集合写真⑤卒業生退場⑥校庭で行われた紙風船飛ばし⑦卒業生3人⑧休校式では全児童がステージに立ち、出席者全員で校歌が歌われた⑨ジャズ演奏⑩記念碑除幕⑪⑫懇親会余興⑬記念碑の前で、みんなで記念撮影⑭懇親会の様子

